

一重小まくし鯛 大板

一重一夜す。しきくらげ 同はたない

一重 ふしめ
かんへう こんぶ
ぜんまい 穀
中鉢ニあゆのすし

一重 御まな三種前同断

御所方江被進候御重詰

一重さばのすし、たて、

平他字類抄上 飲食アソセ

撮壊抄下 飲食サイ

撮壊抄下 飲食サイ

〔倭爾雅六飲食〕引置食也、餌等品數、謂之幾、按和俗稱「膾」之幾、中華稱「羹」之幾、飮、

〔倭訓栞佐編九〕中編九さい 俗に飯にそふる物をよぶは魚菜の意、飮也、

〔倭訓栞佐編一〕中編一あはせ 枕草紙にあはせをみなくひと見え、うつぼ物語にしもの御あはせと見ゆ、飯に對していふ世にさいと稱する是也といへり、されば配の字の義成べし、

〔玉勝間十四〕饌○中

いはゆる菜をば昔はあはせといへり、清少納言枕冊子などに見ゆ、又伊勢神宮の書にまはりとあるは、伊勢の言歟、此國の今も山里人など、まはりといふ所あり、

〔梅園日記四〕中あはせ

夏山雜談に、俗にいふ飯のさいの事を、あはせといふなり、宇津保物語、枕草紙にも見えたりとあり、按するに、宇津保物語開上卷御かゆのあはせいをのよくさ、志やうじのよくさ、又同中ちうのわんに御わけべちにすこしわけて、しもの御あはせなど、もてまぬれり、又同下ゆづけして、あはせいときよげにて、とみにまゐる、落窪物語云、あはせいときよげにて、かゆ參りたり、枕草紙云、あはせをみなくひつれば、花鳥餘情寄生卷云、御あはせてうせさせなど志つ、ことに源氏物語各本にせ給ふなどし、古事談僧行云、仁海僧正ハ食鳥人也、房ニ有ケル僧ノ、雀ヲエモイハズ取ケル也、件